

目次

序文 資源エネルギー年鑑 編集委員会

第I編 エネルギー編 《総論》

第1部 総論

第1章 我が国のエネルギー政策の要諦… 21

- 1 エネルギーを取り巻く内外の現状と今後の動向… 21
 - A 東日本大震災… 21
 - B 震災及び原発事故によって露呈されたエネルギー政策の課題等… 23
 - C 福島第一原発事故をめぐる主要国のエネルギー政策の変化等… 24
- 2 エネルギーと地球温暖化問題への対応… 24
- 3 我が国のエネルギー政策… 29
 - A 震災及び原発事故後の我が国エネルギー政策の検討の方向性… 29
- 4 我が国のエネルギー需給動向… 47
 - A 2009年度における我が国のエネルギー需給の現状… 49

第2章 国際エネルギー情勢 …… 57

- 1 国際石油情勢の最近の動き… 57
 - A 最近の石油価格とOPECの動向等 …… 57

- B 石油需給の今後の見通し… 65
- 2 天然ガス、石炭及び原子力に関する国際エネルギー情勢… 69
 - A 天然ガス… 69
 - B 石炭… 69
 - C 原子力… 71
- 3 多国間国際協力… 71
 - A IEA（国際エネルギー機関） …… 71
 - B APEC（アジア太平洋経済協力） …… 74
 - C エネルギー憲章に関する条約… 77
- 4 エネルギー分野における主要な国際取り組み… 79
 - A 国際エネルギー・フォーラム… 79
 - B G8エネルギー大臣会合 …… 81
 - C G8サミットにおける最近の取り組み… 82
 - D 5カ国エネルギー大臣会合 …… 84
 - E ASEM—アジア欧州会合… 84
 - F IRENA—国際再生可能エネルギー機関… 85

第2部 エネルギーと環境

第1章 エネルギーの利用に起因する

環境問題 89

- 1 地球環境問題とは..... 89
- 2 地球温暖化問題とは..... 89
- 3 地球温暖化問題に対する国際動向..... 90
 - A 気候変動に関する政府間パネル；IPCC... 90
 - B 気候変動枠組条約..... 92
- 4 我が国の地球温暖化問題の現状..... 98
- 5 我が国の地球温暖化対策..... 101
 - A 京都議定書発効までの取り組み..... 101
 - B 京都議定書目標達成計画の策定..... 101
 - C 京都議定書目標達成計画の概要..... 102
 - D 京都議定書目標達成のための対策と施策..... 104
 - E 京都議定書目標達成計画の進捗状況..... 105
- 6 京都メカニズム..... 107
 - A 我が国における京都メカニズムの必要性..... 107
 - B 我が国における京都メカニズムの活用... 108
 - C CDM及びプロジェクトの概要 108
 - D JI及びプロジェクトの概要 109
 - E 国際排出量取引..... 110
- 7 CO₂削減新メカニズムについて 111
 - A これまでの仕組み（CDM制度の問題点と限界）について..... 111
 - B SCMなど新たなクレジット制度提案について..... 112
 - C REDDクレジットについて..... 112
- 8 排出量取引制度について..... 113
 - A 地球温暖化対策基本法案における国内排出量取引制度の規定について..... 113
 - B 我が国の排出量取引制度の国内統合市

場の試行的実施について..... 114

9 グリーンイノベーションの推進..... 116

第3部 新エネルギーの開発・導入促進と政策の展開

第1章 新エネルギーの位置づけと概念の変遷 121

- 1 エネルギー政策における新エネルギーの位置づけ..... 121
- 2 新エネルギーの従来概念..... 121
 - A 歴史的経緯と従来概念..... 121
 - B 新エネルギーの開発・導入促進の意義... 122
- 3 新たな新エネルギーの概念..... 122
 - A 新エネルギーの概念の見直し..... 122
- 4 新エネルギー政策の見直しの具体的方向性..... 125
 - A 過去5年間の新エネルギー等を巡る環境変化と課題..... 125
 - B 政策の新基軸..... 127

第2章 新エネルギー政策の展開 133

- 1 国家戦略としての新エネルギー政策の変遷..... 133
 - A 石油代替エネルギー元年..... 133
 - B 新エネルギー導入促進に向けた環境整備..... 133
- 2 新エネルギー政策の展開..... 135
 - A エネルギー基本計画における展開..... 135
 - B 新エネルギー導入の新たな方向性..... 139
 - C 新エネルギーごとの動向、取り組みと今後の方向性..... 142
 - D 横断的な取り組み及び革新的技術等の方向性..... 147

3 再生可能エネルギーの買取制度……………	149	B 定 義 (第2条)……………	194
A 太陽光発電の導入拡大のためのア クションプラン……………	149	C 供給目標 (第3条)……………	196
B 太陽光発電の新たな買取制度……………	151	D 導入指針 (第5条, 第6条) ……	197
C 再生可能エネルギーの全量買取制度……………	156	E 国民の理解を深める措置等 (第7条～第10条) ……	197
4 再生可能エネルギーの電気利用の推進……………	157	F 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (第11条, 附則関係)……………	198
A RPS法の施行……………	157	2 「非化石代替エネルギーの開発及び導入の 促進に関する法律」への改正……………	199
B RPS法の制度改善及び2014年度までの 利用目標量……………	157	3 「エネルギー供給事業者による非化石エネ ルギー源の利用及び化石エネルギー原料の 有効な利用の促進に関する法律」の概要……………	200
C 再生エネルギー特別措置法の施行……………	159	A 「基本方針」の策定・公表 (第3条) ……	200
5 新エネルギーの開発, 導入及び利用に向 けた支援策……………	160	B 特定エネルギー供給事業者等に対する 非化石エネルギー源の利用の義務づけ……………	200
A 技術開発・実証段階における主な取り 組み……………	160	C 本法における具体的目的・定義等 (第1条) ……	201
B 導入促進のための主な取り組み……………	163	4 「新エネルギー利用等の促進に関する特別 措置法 (新エネ法)」の解説 ……	202
C 水力及び地熱の開発, 導入及び利用……………	164	A 目 的 (第1条)……………	202
D 熱利用の拡大……………	165	B 定 義 (第2条)……………	202
E 新エネルギーに対する理解促進……………	165	C 基本方針 (第3条)……………	203
第3章 新エネルギー開発推進に資する 技術戦略 ……………	167	D 新エネルギー利用指針 (第5条)……………	204
1 新たなエネルギー技術戦略の策定……………	167	E 指導及び助言 (第6条)……………	204
A エネルギー基本計画による指針……………	167	F 利用計画の認定 (第8条)……………	205
B 技術戦略マップ2010……………	168	G 認定事業者への特例措置等 (第10条, 第13条)……………	205
2 バイオマス利活用に関する総合戦略……………	172	5 「電気事業者による新エネルギー等の利用 に関する特別措置法」の解説……………	205
A バイオマス・ニッポン総合戦略……………	172	A 本法制定の経緯等……………	205
B バイオマス活用推進基本計画の策定……………	172	B RPS制度について……………	206
3 次世代自動車・燃料イニシアティブの具 体化……………	176	6 「電気事業者による再生可能エネルギー 電気の調達に関する特別措置法」の要綱……………	207
4 バイオマス燃料技術革新計画の策定……………	181		
第4章 新エネルギー関連重要法規解説 ……………	194		
1 「石油代替エネルギーの開発及び導入の 促進に関する法律 (代エネ法)」の解説 ……	194		
A 目 的 (第1条)……………	194		

第4部 省エネルギー対策 と技術開発・普及 の進展

第1章 省エネルギー政策の現状 213

- 1 国内省エネルギー政策の展開 213
 - A 省エネ法による規制 213
 - B 新・国家エネルギー戦略 213
 - C 省エネルギー技術戦略 214
 - D トップランナー制度の強化 215
 - E 普及広報活動の推進 215
- 2 部門別の省エネルギー対策の進展 216
 - A 民生部門 216
 - B 運輸部門 221
 - C 産業部門 223
 - D 横断的な対策 224
- 3 省エネ国際協力の推進 225
 - A 多国間協力 225
 - B 2国間協力 226
 - C 個別支援概要 226
 - D 国際エネルギースタープログラム 227
- 4 2012年度省エネルギー対策関連予算 229
 - A 省エネルギー対策の一層の推進 229
 - B 環境性能の特に優れた製品の普及拡大 230
 - C 革新的な省エネルギー技術開発の推進 230

第2章 今後の省エネルギー対策のあり 方について 233

- 1 新・国家エネルギー戦略における省エネ

ルギーフロントランナー計画 233

- 2 今後の省エネルギー対策の方向性について 236
- 3 エネルギー需給の早期安定化に向けた省エネ法改正案 247

第3章 省エネルギー関連法及び支援策 248

- 1 「エネルギーの使用の合理化に関する法律」の概要 248
 - A 経緯等 248
 - B 2005年省エネ法改正のポイント 248
 - C 2008年省エネ法改正のポイント 249
- 2 「エネルギー等の使用の合理化及び再生資源の利用に関する事業活動の促進に関する臨時措置法」の概要 251
- 3 省エネルギー設備投資等に対する支援策 253

第4章 省エネルギー技術開発及び導入 ・普及 260

- 1 省エネルギーに関する技術開発施策 260
- 2 省エネルギー技術戦略2011 261
 - A 我が国を取り巻く現状と将来像 261
 - B 産業部門 262
 - C 家庭・業務部門 264
 - D 運輸部門 266
- 3 省エネルギーの推進に係わる技術開発予算（2012年度） 268

第Ⅱ編 エネルギー編 <各論>

第1部 石油・LPG

第1章 世界の石油事業…………… 275

- 1 世界の石油資源…………… 275
 - A 原油の生産状況…………… 275
 - B 石油埋蔵量…………… 283
- 2 国際石油産業の特質と現状…………… 286
 - A 国際石油産業の地位の変遷…………… 286
 - B 国際石油産業の特質…………… 287
 - C 国際石油産業の現状…………… 287
- 3 産油国の動向…………… 291
 - A 石油輸出国機構（OPEC）…………… 291
 - B 産油国国営石油会社…………… 302
- 4 原油の国際価格…………… 309
 - A OPEC主導期…………… 309
 - B 原油価格の引き下げ（1980年代）…………… 312
 - C 中東情勢の緊迫化による価格変動…………… 313
 - D 近年における原油価格の騰落動向…………… 314

第2章 日本の石油産業…………… 321

- 1 日本の石油産業の発展…………… 321
- 2 日本の石油産業の特質…………… 322
 - A 開発企業と精製元売企業…………… 322
 - B 民族系企業と外資系企業…………… 323
 - C 消費地精製方式…………… 323
- 3 石油産業の構造改善の歩み…………… 324
 - A 特石法施行まで…………… 324
 - B 規制緩和の推進…………… 324

- C 我が国石油産業の再編動向…………… 325

第3章 石油開発…………… 328

- 1 石油開発事業の経緯…………… 328
- 2 石油開発の現状…………… 329
 - A 海外自主開発…………… 329
 - B 国内石油・天然ガス開発の促進…………… 346
- 3 石油開発政策の展開…………… 346
 - A 石油開発の意義…………… 346
 - B 石油開発促進政策の変遷…………… 347
 - C 今後の石油開発のあり方…………… 348
- 4 石油開発技術の開発…………… 350
 - A 技術戦略マップ…………… 350
 - B 主な石油開発技術…………… 351

第4章 石油輸入と石油製品の需要動向…………… 354

- 1 石油輸入制度の推移…………… 355
 - A 輸入自由化までの推移…………… 355
 - B 規制緩和への推移…………… 356
- 2 原油輸入…………… 357
 - A 地域別原油輸入の推移…………… 357
 - B 輸入原油の性状…………… 359
 - C 輸入原油価格の推移…………… 359
- 3 石油製品の輸出入…………… 361
 - A 石油製品輸入の規制緩和…………… 361
 - B 石油製品輸入の現状…………… 362
 - C 石油製品輸出の現状…………… 362
- 4 石油製品の需要…………… 362
 - A 需要の動向…………… 362
 - B 2010～2014年度石油製品需要見通しの

概要	366	A 流通経路（商流）	403
		B 給油所（SS）の動向	404
		C ガソリン販売業者の義務	405
第5章 石油精製	371	3 石油販売業の方向性	406
1 石油精製業に関する制度の変遷	371	4 石油製品価格の動向	409
A 規制緩和の推移	371		
B 現在における石油精製業の位置づけ	373	第8章 LPG	414
C 政府による支援策	373	1 LPGの需給	414
2 精製能力の推移	376	A 我が国のLPG需要動向	414
3 石油精製業における環境対策	378	B 我が国のLPG供給動向	417
A 硫黄酸化物（SO _x ）対策	378	C 世界のLPG需給の現状	419
B 窒素酸化物（NO _x ）対策	379	2 LPGの備蓄	421
C 揮発性有機化合物（VOC）対策	380	A 民間備蓄	421
D ばいじん対策	380	B 国家備蓄	421
E ベンゼン対策	380	3 LPGの流通	423
F サルファーフリー燃料の供給	381	A 流通機構の現状	423
G 品確法による強制規格	382	B LPG販売価格	423
H バイオマス燃料への取り組み	382	C 取引適正化の確保	423
4 石油精製業の保安対策	383	4 LPG政策の概要	425
5 今後の石油精製業のあり方	384	A LPGの位置づけ	425
A 石油分科会	384	B 新たな利用形態の促進	426
B エネルギー基本計画	388	C LPG自動車の普及	426
		D 流通合理化の推進	426
第6章 石油備蓄	390		
1 石油備蓄の必要性	390	第9章 石油関係重要法規の解説	428
2 我が国における備蓄政策	391	1 石油業法の廃止と規制緩和プロセス	428
A 民間備蓄	394	2 「石油の備蓄の確保等に関する法律」の概要	429
B 国家備蓄	394	3 「日韓大陸棚特別措置法」の概要	430
C 近年の備蓄政策動向	397	4 「石油需給適正化法」の概要	432
D 今後の石油備蓄のあり方	399	A 本法制定の経緯	432
E 東日本大震災への対応	400	5 「揮発油等の品質の確保等に関する法律」の概要	434
第7章 石油製品の流通・販売	402	6 「石油パイプライン事業法」の概要	435
1 石油製品の流通機構	402	7 「液化石油ガスの保安の確保及び取引の	
2 ガソリン流通の動向	403		

適正化に関する法律」の概要	436
---------------	-----

第2部 電気事業

第1章 電気事業の概要 441

1 電気事業をとりまく環境の変化	441
A 電気事業の特質	441
B 電気事業の構造改革	441
2 電気事業体制の現状	443
3 電気事業の行政規制の概要	443
4 電気事業政策の変遷と現状	444

第2章 電力設備の現状 448

1 原子力	448
A 原子力発電設備の現状	448
B 原子力電源開発目標	448
2 水力	454
A 水力発電の方式	454
B 水力開発方式の変遷	455
C 包蔵水力	456
D 水力発電設備の現状	456
E 再生可能エネルギーとしての水力	457
F 今後の水力開発	458
3 火力	458
A 火力発電所の現状	458
B 今後の火力発電所	462
4 電力流通設備	462
A 送電設備	463
B 変電設備	464
C 配電設備等	465

第3章 電気事業における規制制度改革 470

1 経緯等	470
2 第1次電気事業制度改革	470
A 制度改革の経緯	470
B 主な改正内容	470
3 第2次電気事業制度改革	471
A 制度改革の経緯	471
B 主な改正内容	472
4 第3次電気事業制度改革	473
A 制度改革の経緯	473
B 主な改正内容	473
5 第4次電気事業制度改革	475
A 制度改革の状況	475

第4章 電力需給 477

1 短期的な電力需要の見通し	477
A 需要電力量	477
B 最大需要電力	478
C 年負荷率	478
2 長期的な電力需要の見通し	478
A 需要電力量	478
B 最大需要電力	479
C 年負荷率	480
3 需給バランス	480
A 短期的な需給バランス	481
B 長期的な需給バランス	481

第5章 電源開発 482

1 電源開発計画の経緯	482
2 電源立地対策の現状	482
A 電源立地対策の体系	482
B 電源地域の振興	484
C 電源立地P.A.対策の推進	489
D 原子力開発への理解促進	491

E 環境保全対策	492
----------	-----

第6章 電気料金 504

1 料金の算定方式	504
A 基本理念	504
B 従来の電気料金算定方法	505
2 料金制度に関わる審議	508
A 2000年以前の審議	508
B 2001年～2004年の審議	508
C 2008年以降の審議	508
3 近年の料金改定状況等	514
4 適正な電力取引について	518

第7章 電気関係重要法規解説 520

1 電気事業法	520
A 歴 史	520
B 目 的	521
C 2003年の電気事業法改正の概要	521
2 電源開発と電源三法	522
A 立地促進対策	522
3 電気用品安全法	525
A 目的と定義	525
B 法律・制度の概要	526
C 2007年の法改正の概要	528
D 2008年以降の動き	529
4 電気工事士法及び電気工事業法	529
A 電気工事士法	529
B 電気工事業の業務の適正化に関する法律	531

第3部 原子力

第1章 我が国の原子力開発利用の歴史と現状 535

A 我が国の原子力開発の経緯及び現状	535
B 原子力の安定的な利用について	539
C 資源確保と安全な利用に向けて	539
D 使用済み燃料の再処理について	540

第2章 原子力発電の課題と対策 542

1 原子力発電の位置づけと現状	542
2 原子力発電の安全確保対策	544
A 多重防護の考え方	544
B 国による原子力発電所の安全規制行政	545
C 東日本大震災及び福島第一原発事故を踏まえた安全性確認方針	549
D 環境放射能対策	550
3 原子力発電開発利用の推進策	552
A 立地促進対策の拡充・強化	552
B 軽水炉技術の高度化の推進	553
C 新型炉の開発及び実用化の推進	553
D 原子炉廃止措置対策	555

第3章 核燃料サイクルの推進 557

1 核燃料サイクルの現状	557
2 核燃料サイクルの基本的な考え方	558
3 核燃料サイクルの着実な推進と関連産業の戦略的強化	567
A 基本的な考え方	568
B 戦略的産業分野	569
C 戦略的産業分野を支える分野	570
4 高速増殖炉サイクルの早期実用化	573

第4章 原子力をめぐる国際情勢	575
1 世界の現状	575
A アメリカ	575
B カナダ	575
C ヨーロッパ	575
D アジア地域	577
E ロシア	577
F その他の地域	578
2 今後の国際動向展望	578
3 我が国としての対応策	579
4 国際機関の活動概況	581
A 国際原子力機関 (IAEA)	581
B 経済協力開発機構/原子力機関 (OECD/NEA)	581
C 経済協力開発機構/国際エネルギー機関 (OECD/IEA)	582
5 国際的な原子力安全への取り組み	582
A モスクワ原子力安全サミット	582
B IAEA原子力安全基準文書の策定	582
C 原子力安全条約	583
D 使用済燃料管理及び放射性廃棄物管理 の安全に関する条約	583
E 放射線源の安全とセキュリティに関す る国際会議	583
6 核不拡散をめぐる国際動向	583
A 北朝鮮の核開発問題	583
B イランの核問題	585
C インドをめぐる原子力協力の動き	586
D 核不拡散に関する国際的枠組み	586
7 ITER (国際熱核融合実験炉) 計画	587
第5章 原子力関係重要法規	589
A 原子力基本法	589
B 核原料物質, 核燃料物質及び原子炉の 規制に関する法律	589

C 原子力委員会及び原子力安全委員会設 置法	589
D 放射性同位元素等による放射線障害の 防止に関する法律	589
E 原子力損害の賠償に関する法律	589
F 原子力災害対策特別措置法	589
G 特定放射性廃棄物の最終処分に関する 法律	590
H 独立行政法人日本原子力研究開発機構 法	590

第4部 ガス・熱供給事業

第1章 ガス事業の概要	595
1 ガス事業の歴史	595
2 ガス事業制度改革	598
A 1994年のガス事業制度改革	598
B 1999年のガス事業制度改革	598
C 2003年のガス事業制度改革	598
D 2006年のガス事業制度改革	599
3 ガス事業制度改革の成果	599
第2章 ガスの需給	600
1 ガス需給の現状	600
A ガス事業者	600
B ガスの需要	601
C ガスの生産・購入	602
2 ガス需給の見通し	603
A ガスの需給	603
B ガスの生産・購入の見通し	605

第3章 ガス事業の保安対策	606
1 ガス事業保安対策の実情	606
2 ガス事業設備の保安対策	608
A 環境変化等に対応したガス保安対策	608
B ガス漏れ事故の再発防止策	608
C ガス安全高度化計画	609
3 ガス消費機器の保安対策	612
A ガス用品の取り締まり	612
B 特定ガス消費機器の設置工事に係る保安対策	613
C 事故原因の究明及び再発防止策	614
第4章 ガス料金	615
1 料金改定の経緯	615
A 1988年の料金改定の概要	616
B 1989年の料金改定の概要	616
C 1993～1995年度の円高差益等の還元措置	617
D 1996年の料金改定の概要	618
E 1998年ガス事業法改正に伴う料金改定の概要	621
F 2006年ガス事業法改正に伴う料金算定規則の変更	624
2 近年の料金改定動向	624
A 原料費調整制度の見直し	624
B 託送供給制度、規制料金制度	626
3 ガス料金の情報公開	626
第5章 ガス関係審議会の活動	628
A 総合資源エネルギー調査会	628
B 都市熱エネルギー部会	629
C 石油分科会	629
D 石油分科会開発部会	630
E 高圧ガス及び火薬類保安分科会	631

F 高圧ガス及び火薬類保安分科会高圧ガス部会	631
G 高圧ガス及び火薬類保安分科会液化石油ガス部会	631

第6章 熱供給事業	633
1 熱供給事業の概要	633
2 熱 料 金	634
3 未利用エネルギーの活用	639
4 今後の課題	640

第7章 ガス・熱供給関係重要法規	642
1 ガス事業関係法規	642
2 熱供給事業関係法規	643

第5部 天然ガス

第1章 天然ガス・LNGの需給	649
1 天然ガスの特徴	649
2 世界の需給動向	649
A 世界の天然ガス埋蔵量	649
B 世界の天然ガス生産量	650
C 世界の天然ガス利用状況	650
D 世界の天然ガス貿易動向	654
3 我が国の需給動向	656
A 天然ガスの国内生産量	656
B LNGの輸入量	656
C LNGの価格	657

第2章 天然ガス・LNG政策	660
1 国内探鉱・開発推進政策	660

A 石油及び可燃性天然ガス資源開発法の 制定	660
B 国内石油・天然ガス基礎調査 (長期5カ年計画)	660
C 今後の国産天然ガス開発	663
D メタンハイドレート開発計画	665
2 LNGの開発導入	668
A LNG時代の到来	668
B 我が国のLNGプロジェクト	668
3 新技術の開発と普及拡大	669
A IGF21計画	669
B GTL製造技術	669
C DME燃料利用技術	670
4 燃料転換・高度利用に向けて	670

第6部 石 炭

第1章 石炭鉱業の歩みと石炭政策の 変遷

1 歴史的経緯	681
A 戦後の日本経済復興のための傾斜生産 体制	681
B 高炭価問題と合理化臨時措置法の制定	681
C 「エネルギー革命」以降の変遷	682
D 石油危機以降の動向	685
2 第8次策下の石炭鉱業	686
3 ポスト8次策の石炭政策	687
4 石炭関係審議会の活動	688
A 石炭鉱業審議会	688
B 産炭地域振興審議会	689

第2章 石炭の現状

1 世界の石炭情勢	690
-----------	-----

A 埋 蔵 量	690
B 生 産 量	690
C 消 費 量	690
D 貿 易	690
2 国内石炭鉱業の現状	692
A 生 産	692
B 生産体制	692

第3章 石炭政策の現状と課題

1 石炭利用をめぐる環境変化と今後の石炭 利用の位置づけ	695
A エネルギー源としての石炭	695
B 石炭をめぐる環境変化	695
C 2030年を見据えた石炭利用の位置づけ	697
2 海外炭輸入の現状と海外炭の安定供給	699
A 現 状	699
B 海外炭開発	699
C コールセンター	702
D 今後の国際石炭市場の課題	702
E 安定供給に向けた基本的方向性と政策 パッケージ	705
3 石炭技術開発	708
A 主要産炭国との石炭生産技術の開発	708
B 石炭利用技術の開発	708
C 海外における石炭資源開発の推進	712
4 国際協力の推進	714
A 発展途上国に対する支援	714
B 産炭国との関係強化	715
C 先進国との協力	715
5 石炭鉱業対策の現状	715
A 生産体制の合理化	715
B 保安の確保	715
6 石炭鉱害対策	716
A 臨鉱復旧	716
B 鉱害担保	717
C 鉱害融資	717

D 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の石炭鉱害賠償等業務	717
E 鉱害紛争	717
F 鉱害対策の現状	718
7 産炭地域振興対策	718
A 施策の歴史的概要	718
B 産炭地域振興計画	719
C 産業基盤整備対策	719
D 企業誘致対策	719
E 地方財政対策	719
F 中小商工業者対策	721
G 産炭地域振興対策の現状	721

第4章 石炭関係重要法規の解説 723

1 石炭鉱業の構造調整の完了等に伴う関係 法律の整備等に関する法律	723
A 石炭鉱業審議会答申のポイント	723
B 本法制定の趣旨等	724
C 条 文 等	724
2 産炭地域振興臨時措置法	726
A 本法制定の趣旨及び経緯	726
B 本法の失効に伴う経過措置等	726

第Ⅲ編 資 源 編

第1章 鉱物資源産業の現状と課題 731

1 国内需給の現状	731
A 国内需要の推移	731
B 供給構造の変化	733
C 海外資源開発への進出	734
D リサイクルの推進	734
E 非鉄金属産業	735
F 非鉄金属鉱業	735
G 非金属鉱業	736
H 採 石 業	736
2 海外開発の現状	738
A 海外開発の意義と必要性	738
B 海外資源開発の形態と歴史	738
C 海外開発の問題点と支援策	742
3 製 錬 業	743
A 製錬業の概要	743
B 生産技術	743
4 需給及び価格動向	745

A 世界の需給及び国際価格の動向	745
B 国内需給及び価格の動向	750

第2章 世界の鉱業の現状 752

1 非鉄金属をめぐる国際情勢	752
A 海外資源メジャーの動向	752
B 資源ナショナリズムの動き	754
C 中南米諸国の開放政策	756
D 旧ソ連地域の市場経済化	756
E アジアの重要性の高まり	756
2 世界の鉱業及び製錬業の現状	757
A 非鉄金属の埋蔵量と採掘の現状	757
B 非鉄金属の製錬業	762
3 各国の資源政策	764
A アメリカ	764
B カ ナ ダ	765
C オーストラリア	765
D ベ ル ー	766

E	チ	リ	766
F	フィリピン	767	
G	インドネシア	768	
H	中 国	768	

第3章 鉱物資源政策の概要 771

1	総論及び今後の方向	771
2	国内資源の探鉱開発	772
3	海外資源の探鉱開発と支援策	774
A	調査事業	774
B	海外探鉱に対する出融資	776
C	海外資源開発に対する融資・債務保証	776
D	税制上の諸対策	777
4	リサイクルの推進	778
5	代替材料等の開発	778
6	探査技術開発	778
7	レアメタル備蓄制度	779

第4章 深海底鉱物資源開発政策 781

1	深海底鉱物資源の概要	781
A	マンガン団塊	782
B	海底熱水鉱床	783
C	コバルト・リッチ・クラスト鉱床	785
2	国連海洋法条約における深海底鉱物資源	

開発の動向	787
A 国連海洋法条約の概要	787
B 条約発効に向けた調整・準備	788
C 条約発効と実施協定に関する議論	793
D 条約における深海底鉱物資源開発に係る秩序の構築	794
E 深海底鉱物資源開発の国際的スキーム	795
F 我が国の国連海洋法条約への対応	798
G 諸外国の国連海洋法条約への対応	799
3 我が国の深海底鉱物資源開発への取り組み	800
A 賦存状況調査	800
B 探鉱技術研究開発	801
C 海洋エネルギー・鉱物資源開発計画	801
D 今後の取り組み	803

第5章 鉱物資源関係重要法規 805

1 鉱業法	805
A 平成23年改正の概要	805
B 鉱業法改正の概要	805
2 採石法（抄）	810
3 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構法（抄）	813
4 深海底鉱業暫定措置法（抄）	816